

軍機

昭和十六年十月三十日

山上陸兵團長

護衛隊指揮官

間協定

第四大師團長 陸軍中將 土橋 勇逸

護衛部隊指揮官 海軍少將 原 顯三郎

冊番號	
11	
100	
紙	數
15	

一到着

輸送船ハ七日迄ニ集合ヲ完了ス

ニ集合地

第一輸送船隊

高 雄

第二

馬 公

第三

基 隆

三集合地泊地

(一) 第三船隊、第十四軍間協定ニ依ル

(二) 錨 地 各護衛隊指揮官是ル所ニ依ル

第一輸送船、集合地到着期限、泊地、集合地ニ於テ行季及出發期日

四集合地ニ於ケル行事

27日	27日	27日	27日	日
一九〇〇	一四〇〇	〇九〇〇	〇九〇〇	開始時刻
通信打合也	船長打合也	通信打合也	各護々隊 各輸送船隊 及各習警隊 打合也	行事種類
三 実施要領 一 指導官 各護々隊参謀 二 実施要領 27日 指示又	一 場所 各護々隊旗艦 二 参集者 各船長監督官	三 指導官 各護々隊参謀	一 場所 各護々隊 旗艦 二 参集者 各輸送船通信士 派遣通信関係員	実施要領

午後ノ諸行事ニ関シテハ更ニ各護隊指揮官及各輸送船隊上陸指揮官間ニ於テ協定ス

日時ハ當時ノ状況ニ依リ各護隊指揮官及各輸送船隊上陸指揮官協議變更スルコトヲ得

陸軍自隊ノ訓練ハ三月ヨリ廿六日迄向ニ於テ行フモノトス

五 集合地 出発日時

第一輸送船隊

廿七日 一五〇〇

第二

廿七日 一三〇〇

第三

廿七日 〇七〇〇

(備考)

出発日時ハ當時ノ状況ニ依リ各護隊指揮官及各輸送船隊上陸指揮官協議ノ上變更スルコトヲ得

第二、上陸點及其偵察  
一、上陸點、第一輸送船隊

「アゴウ」西方海岸地区

但シ車輛類ハ「アリンガイ」南北海岸地区

第二輸送船隊

「カバ」南北海岸地区

第三輸送船隊

「コングビーケ」地区

二、偵察

上陸點ノ事前偵察ハ特ニ實施セズ

第三上陸軍ノ兵團部署

一 軍隊区分

右翼隊 (第一輸送船隊)

長

大佐

柳

勇

歩兵 軽戦車一聯 (中欠) 搜索聯隊

山砲 天ヲ基幹トス

左翼隊 (第二輸送船隊)

長

少將

安部孝一

歩兵 大 山砲一聯 (中欠) ヲ基幹トス

右側支隊 (第三輸送船隊)

長

少佐

菅野

浄

歩兵 ヲ基幹トス

ニ行動概要

右翼隊

上島支隊(第三輸送船隊)

長 大佐

上島 良雄

歩一大ヲ基幹トス

「アゴ」ニ奇襲上陸シ爾後主力ヲ以テ「アゴ」——「エバオ」  
「アゴ」——「キヤンブワン」——「ホホナ」道ヲ「ホホナ」附近  
一部ヲ以テ「アゴ」——「タモルテイス」——「マビリオ」道ヲ以テ  
北オ地ニ進出シ師團主力ノ集結ヲ掩護ス

左翼隊

「カバ」ニ奇襲上陸シ所在ノ敵ヲ撃破シ爾後し約ノオホ  
基幹トスル部隊ヲ以テ上陸点ヲ掩護セシメ主力ハ海  
道及「アリンガイ」河谷道ヲ併用シ「タモルテイス」  
「ロザリオ」向ノ地ニ兵力ヲ集結ス

上島支隊

「ロングビーチ」ニ奇襲上陸シ「サンズランド」ヲ攻略ス

左側支隊

上島支隊ヲ引續キ上陸シ速カニ「ナギリア」ニ飛行ハ  
占領シ次デ「バキオ」ニ向ヒ進軍ス

第四上陸開始期日及時刻迄三上陸日程

一上陸開始期日 27日

二上陸開始時刻並ニ上陸日程

上陸部隊	泊地進入時刻	投錨時刻	上陸開始時刻	上陸日程
第一輸送船隊	0100	0330	0500	概ネ七日
第二輸送船隊	0100	0330	0530	同
第三輸送船隊	0100	0400	0700頃	同

備考

泊地ニ機雷アリニ機雷欠分ニ時間ヲ要スル場合ハ  
然ラズ待テ入泊スルコトアリ



第五輸送船隊区分輸送船隊行動並ニ指揮官

所在

一輸送船隊区分

船隊別	分隊別	船名
第一輸送船隊	第一分隊	606 春光、607 長鳴、608 武洋、609 日明 (軍需品)
	第二分隊	610 前橋、611 喜山、612 去海
	第三分隊	但馬、北明、常盤、隆南、天平、昆山 (軍需品)
	第四分隊	之りい、武豊、津山、へいぐ、山菜、旺洋
	第五分隊	大山、せのあ、旭光、あらすか、帝海、軍需品、まのや、蓬来 (病)
	第六分隊	宝永山、日和、對馬、羅洋、香洋、あとりす、あしどな
	第七分隊	平安、伊人、ふさぐ、宮殿、五丁、乾山、あさか、薩摩 (給食船)
	第八分隊	銀座、帝國、長良、敷りま、熱田、満屋、不夜、泊場船、伊津川、霞浦船
	第九分隊	仁山、ひまらゆ、美洋、甲南、桃山、民領 (工作船)
	第十分隊	楠山、もんとりす、白鹿、徳南、高岡、北辰 (病)

備考	送船隊	第一分隊	うえいのみす、八重、打出、樂洋（航空）
		第二分隊	あまぐん、加洲、米山、巴洋、民島（軍需品）
各輸送船隊毎に本表記載順序に連、船番号ヲ附ス			

二 輸送船隊ノ行動

(1) 航路

別圖第一ノ通

(2) 航行速度

原速度、八節

半速度、七節

微速度、六節

三 指揮官所在

上陸兵團長

銀洋丸

第一輸送船隊指揮官

文リ丸

# 第六海上護衛

一方針

直接護衛兵力ヲ附シ護衛ス

二護衛兵力

護第一護衛隊	區分	指揮官	使用兵力	護衛船隊
第五水雷戰隊司令官 少將原顯三郎			輕巡洋艦二隻 驅逐艦八隻	第一輸送船隊

第一輸送船隊指揮官

銀洋丸(上陸兵團長兼)

第三

彼南丸

第一護衛隊指揮官

名取

第二

那珂

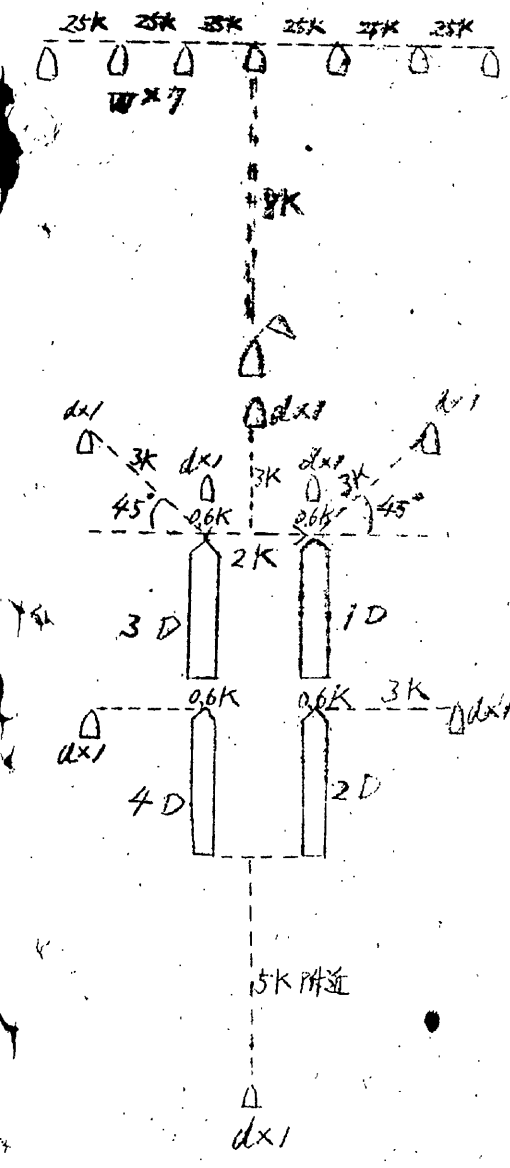
第三

若鷹

三警戒航行隊形

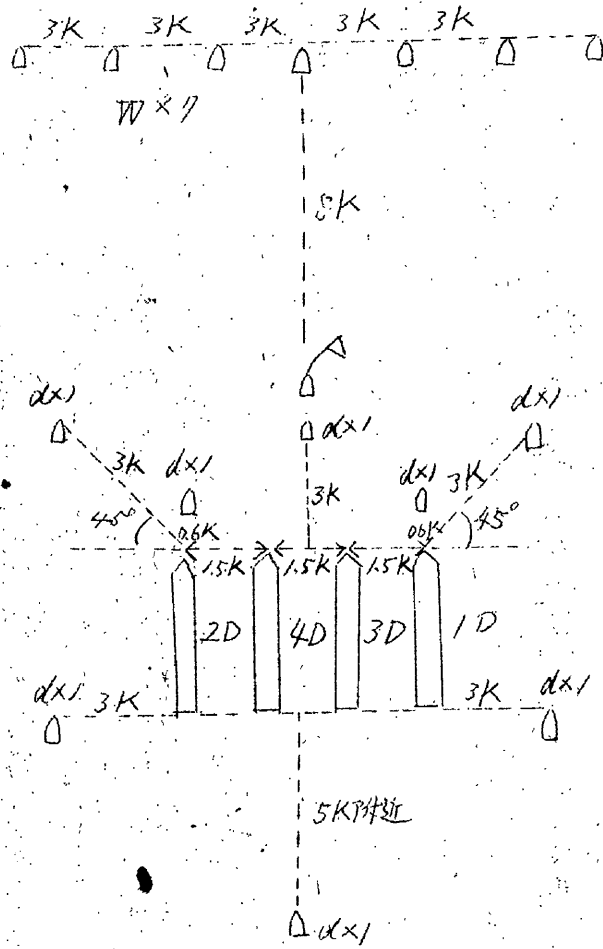
第一警戒航行隊形

(第一輸送船隊ニ対スル基準ヲ示ス第一第二第三輸送船隊ニ対シテハ夫々各護衛隊指揮官ノ定ムル所ニ依ル)



隊	部	衛
第三護衛隊	第一護衛隊	
少將 廣瀬末人	少將 西村祥治	第東軍隊司令官
30W9 19W 潜岐丸欠)	第二根據地隊兵力(11W9)	掃海艇七隻
第三輸送船隊	第三輸送船隊	輕巡洋艦一隻 驅逐艦八隻

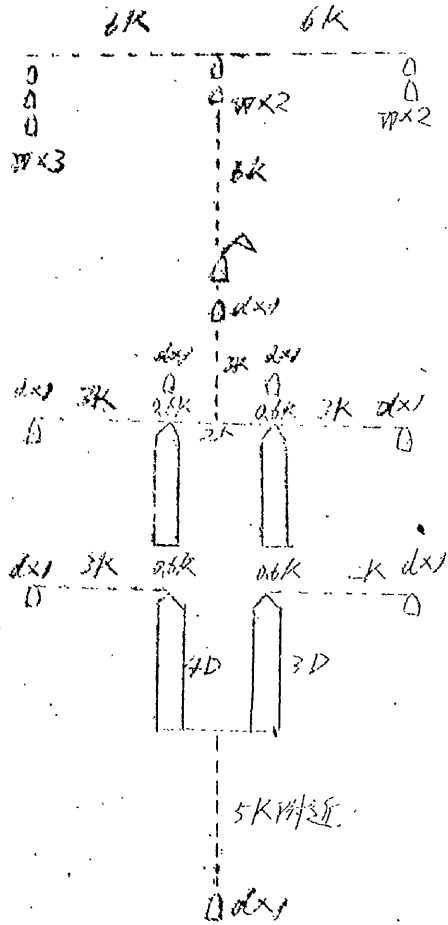
2960



第二警戒航行隊形  
 (第一輸送船隊ニ対スル基準ヲ示ス第二第三輸送船隊ニ対シテハ  
 夫々各護衛隊指揮官ニ定ル所ニ依ル)

第三警戒航行隊形（夜間）

（第一輸送船隊ニ対スル基準ヲ示ス第二第三輸送船隊ニ対シテ夫々護衛隊指揮官定ムル所ニ依ル）



備考

- (一) 各隊形共輸送間ノ距離ヲ五〇〇米トス
- (二) 状況ニ依リ護衛艦八機宜行動スルコトアリ

#### 四 輸送船自衛兵器ノ使用

輸送船因航行中ノ対空射撃ハ護衛船射撃開始  
後輸送船指揮官ノ所信ニ依リ之ヲ行ヒ其ノ他ノ場合ニ於テ  
ハ自衛兵器ハ之ヲ使用セザルヲ例トス

#### 五 敵飛行機潜水艦ヲ發見シタル場合ノ措置

敵飛行機潜水艦ヲ發見セル際ハ輸送船隊運動並ニ通  
信規定ニ依ル信号ヲ行ヒ緊急或艦ハ敵飛行機(潜水艦)  
ヲ収束ス

輸送船隊ハ嚮導艇ノ嚮導ニ依リ運動スルト共ニ所定信号  
ニ依リ回避ヲ行フ

#### 六 敵水上艦艇ヲ發見シタル場合ノ措置

機宜輸送船隊ヲ非敵側ニ避退セシムルト共ニ指定敵側

艦艇ハ敵ヲ攻撃ス

七、第三國軍艦商船飛行機ニ遭遇スル場合ノ處置

(1) 護衛指揮官ノ命ニ依リ輸送船隊ハ之ト遠カラシクス  
針又ハ偽航路ヲ採ルヲ例トス

(2) 海軍艦艇ハ情況ニ應ジ煙幕等ヲ展張シ我ガ企圖ノ秘  
匿ニ努ムルヲ共ニシテ第三國商船ニ対シテハ機宜処理ス

八、輸送船故障又ハ遭難時ノ處置

(1) 輸送船遭難セル場合ハ速カニ列外ニ出テ護衛隊指揮官  
所定ノ艦艇及必要ニ應ジ特令ニ依リ特殊船之ヲ救難  
ニ当ルヲトス

(2) 故障落伍船ハ極力懇急處置ヲ以テ輸送船隊ニ追  
及スルヲ原則トス、故障復旧ニ長時間ヲ要スル場合ハ



間接護衛、下ニ單獨<sup>正</sup>陸突ニ直行セシムルヲ例トス

(イ) 事故ニ依リ列外ニ出テタル船アル時ハ各分隊毎ニ順次其ノ空位ヲ充タスモノトス

落伍船追及シタル時ハ特令ニ依リ固有位置置復帰スルモノトス

(ロ) 天候其ノ他ノ異変ニ依リ各船離散セル場合ハ指示集合突又ハ所定時刻上陸突泊地ニ於テ合同スルヲ

ク努ムルモノトス

九 溺者アリ船ハ輸送船係運動並ニ通信規定第五ト五條ニ依リ附近ノ護衛艦ニ報告シ其ノ儘航進ヲ續ク

ルモノトス

溺者ノ救助ハ護衛艦之ニ当ルヲ立前トス

第七 牽制陽動

特ニ實施ス

第八 飛行機ノ使用

名取郡河水上偵察機ハ各護衛隊指揮官所定ニ依リ  
前路警戒及偵察攻撃ヲ行フコトアリ

第九 碇泊隊形、泊地進入隊形及泊地

進入要領

一 碇泊隊形別圖第八 通

二 泊地進入隊形

### 三泊地進入要領

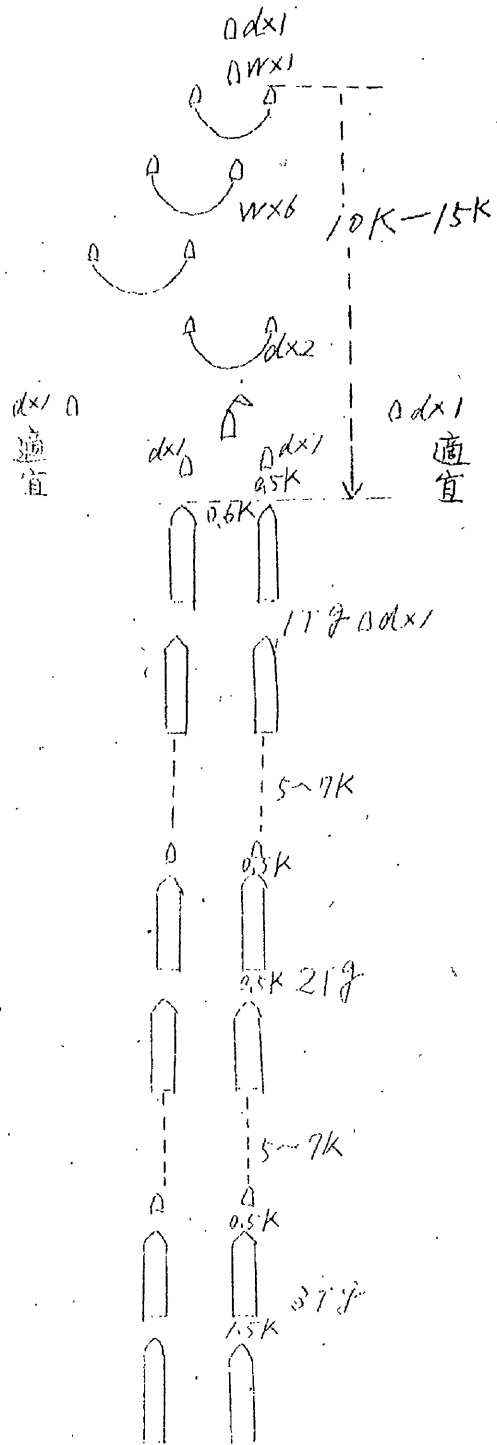
空△

第二第三輸送船隊警戒艦隊ハ夫々各護衛隊指揮官之ヲ

(1) 護衛隊指揮官ハ泊地進入前適宜泊地進入隊形制ヲ

令ス

(2) 次デ護衛隊指揮官ハ泊地進入ヲ令ス



輸送船隊ハ嚮導艦嚮導、錨地ニ入泊ス

(1) 入泊時輸送船速力ノ遅減標準ヲ左ノ通トス

三〇〇米前

入港ハ投錨ニ用意

八〇〇米前

半速

二〇〇米前

微速

一〇〇米前

停止

### 第十リンガエニ於ケル防備施設

海軍ニ於ケルリンガエニ上陸突ノ海正面防備施設ハ第一ニ根據地隊之ヲ担任ス

海軍防備施設標準別圖第三ノ通細項ハ指揮官ノ定ムル所ニ依ル

# 第十 上陸戦、上陸掩護及揚陸作業援助

一 上陸ハ大奇襲上陸ヲ本旨トス

二 上陸掩護

海軍艦艇ノ上陸掩護射撃ハ兵曹長及翼(支)隊長ノ要  
求ニ依リ實施ス

但シ天明後ニ發見シテシテモナンドシ方面ヨリノ敵砲撃ニ對シ

テハ海軍指揮官ノ所信ニ依リ之ヲ及ぶス

三 揚陸作業援助

輸送船舶地附近ノ海軍艦艇ハ陸軍ノ要請ニ場合戰  
況之ヲ許サバ舟艇ノ應急修理ヲ援助ス

## 第十二 上陸后ニ於ケル輸送船ノ行動

一 輸送船ハ適宜内地又ハ台湾方面ニ返還ス

二 若回航中ハ間接護衛ヲ例トス

三 輸送船隊入泊後泊地ヲ出入スル輸送船ハ別圖第三ニ

依ル航路ヲ採ルモノトシ必要ニ應ジ附近ニアル海軍艦

艇ヨリ出入航路ノ指示ヲ受クルモノトス

## 第十三 通信

別冊通信ニ関スル規定ニ依ル

## 第十四 情報交換

一 海軍ハ集合地出發後毎日天氣豫報ヲ通報ス(各護

衛隊旗艦実施)

三陸海軍八努メテ互ニ關係情報ヲ交換ス

### 第十五指揮官ノ行動

一上陸兵団長

21<sup>14</sup>日 夜三回、目ニ「カバ」附近ニ上陸シ爾后「カバ」方面ニ

先行位置スル予定

二第一護衛隊指揮官

輸送船隊ヲ概テ直接護衛シ上陸地着上陸成功

セハ現場指揮ヲ第一根據地隊司令官ニ譲リ比島

西方海面ニ在リテ機宜行動スル予定

三才ニ護衛隊指揮官

輸送船隊ヲ直接護衛シ揚陸地着後他方面ニ  
轉進スル事ヲ定

四才ニ護衛隊指揮官

當分間上陸地附近ニ在リテ行勦スル事ヲ定

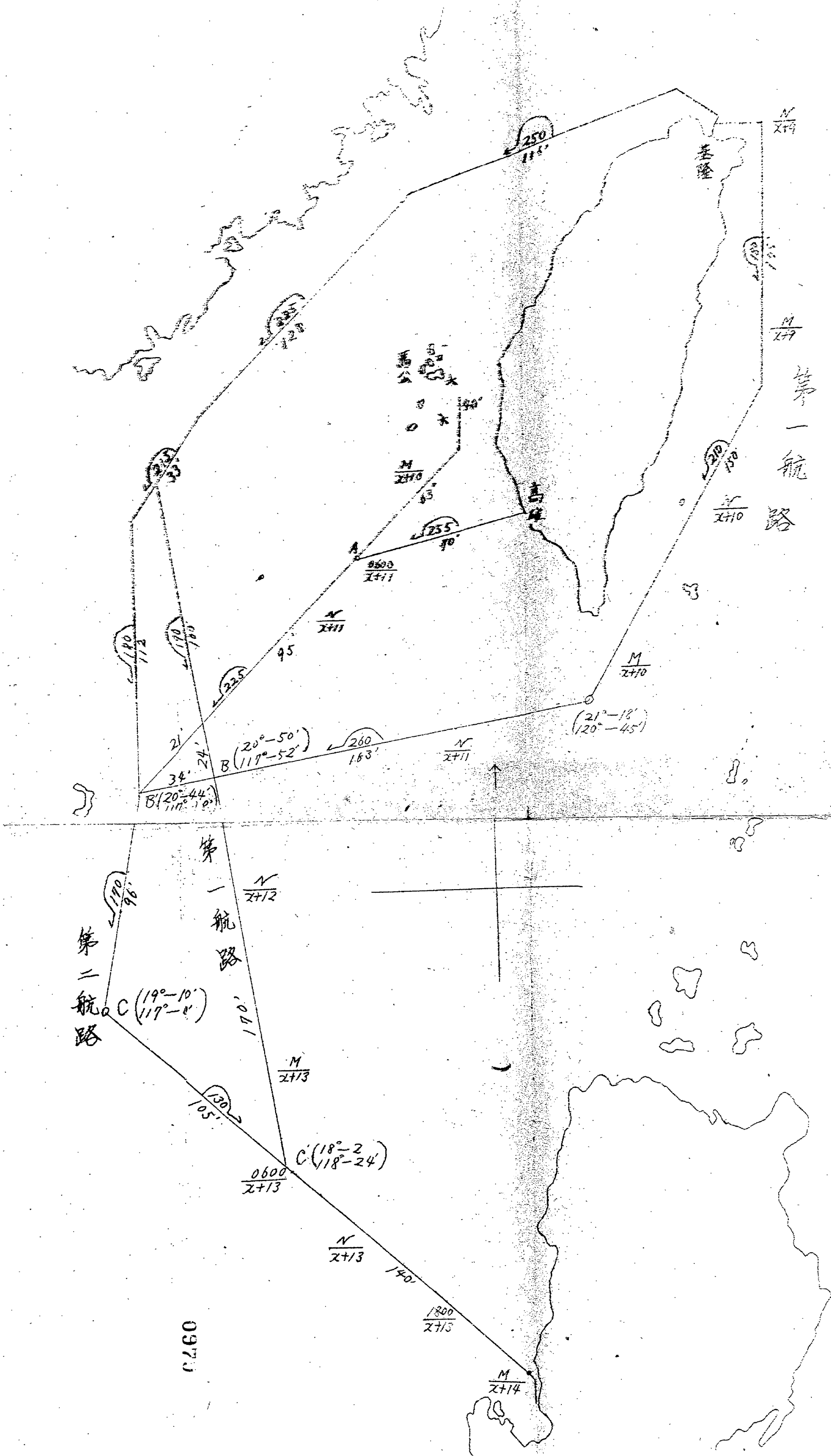
(終)



海圖第一

豫定航路圖(海圖第一六七六號、高尺度)

(一) 第一航路ヲ常用シシ護衛隊指揮官并定ニ依リ  
二航路ヲ探ルコトアリ

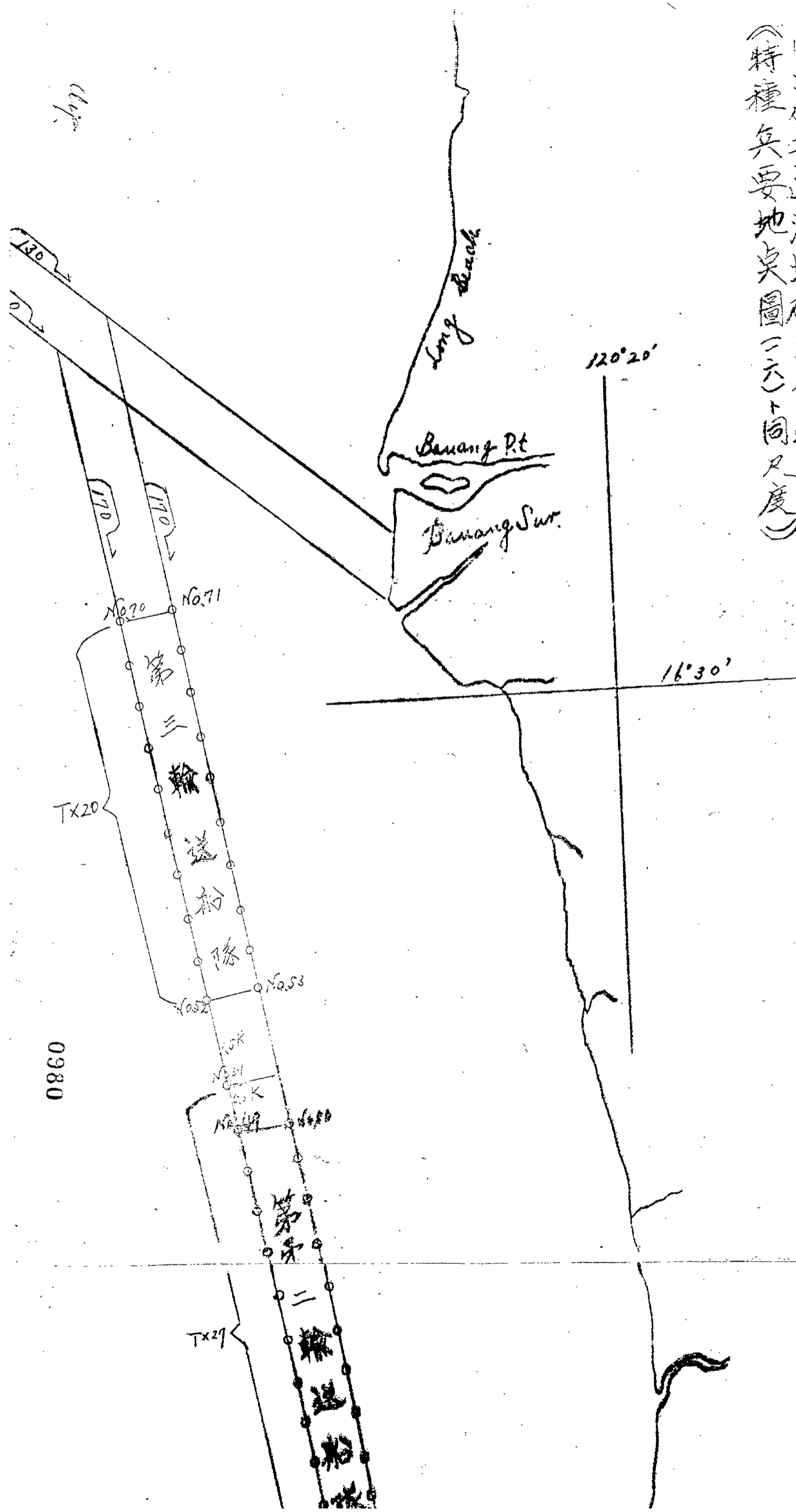


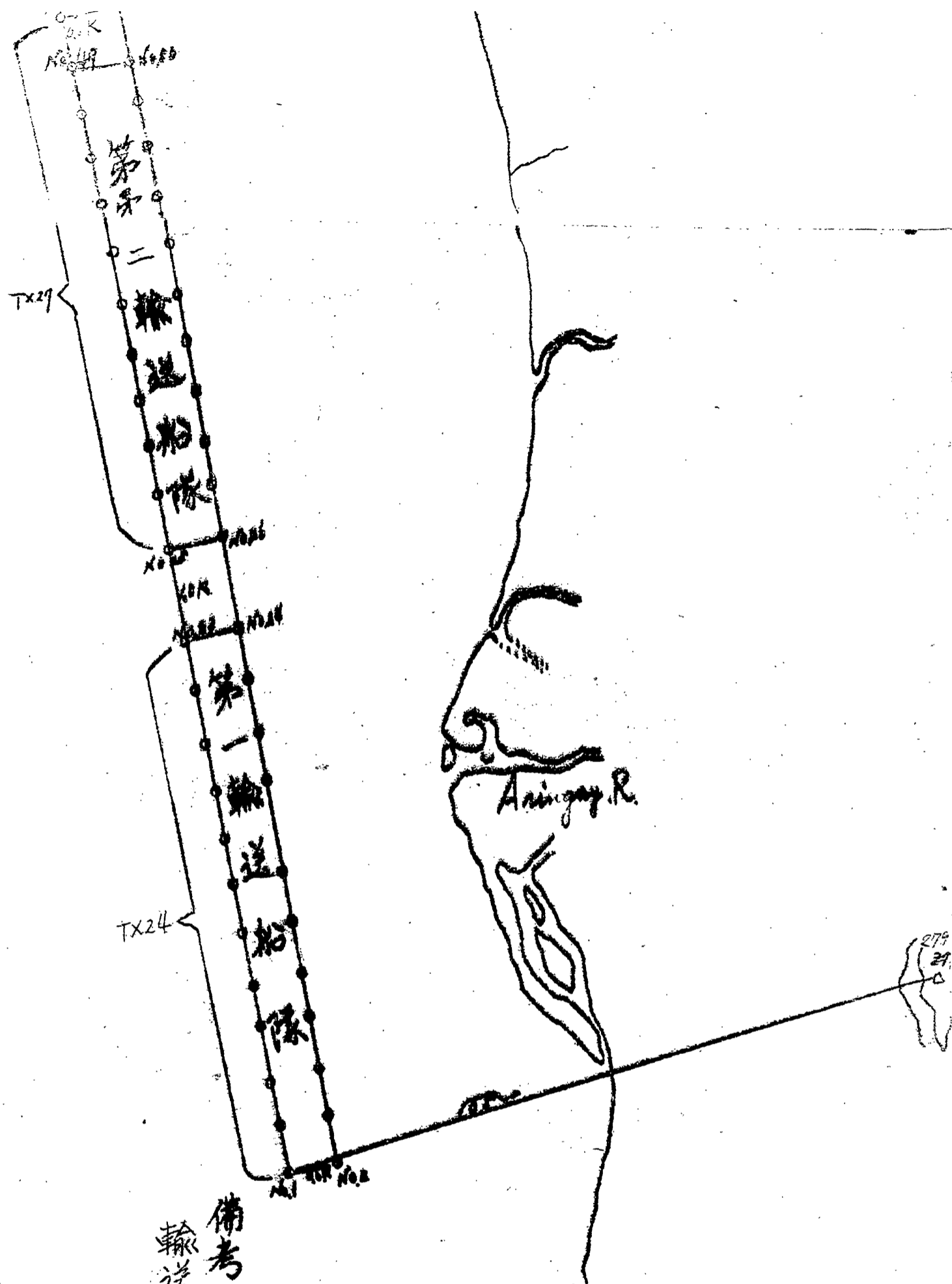
# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影順序	
分割撮影 した 理由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>60年 9月26日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 金沢悦夫 (印)</p>	

別圖 第二

リンガエン泊地破泊係形  
 (特種兵要地真圖ニ六ト同尺度)



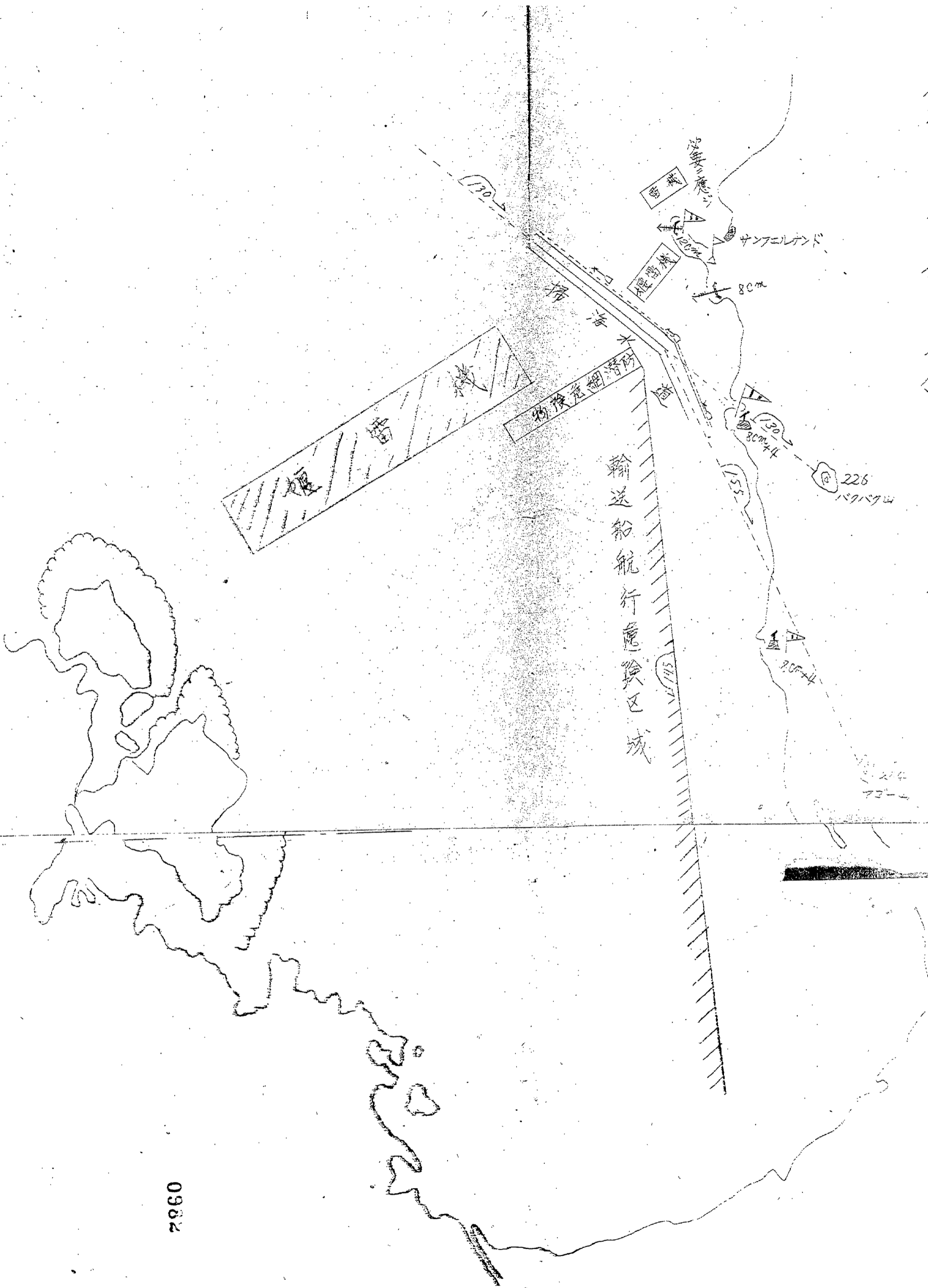


備考  
輸送船の距離八五〇米

0981

第三卷之三

上陸点防備施設標道及輸送船出入航路等  
(海圖第一六三〇號と同尺度)



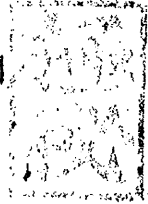
0982

8860

通信關係

通信連絡ニ關スル協定

「リ」上陸兵團長  
護衛隊指揮官  
間協定別冊



(1)

# 第一要旨

一 本協定ハ通信ニ関スル海陸軍中央協定、南方軍  
 總司令官南方方面海軍最高指揮官間協定及  
 海軍比島部隊指揮官、陸軍第十四軍司令官  
 間協定ニ基キ、上陸兵團長、護衛隊指揮官間  
 ノ通信ニ関スル事項ヲ協定ス

二 本協定ニ記述シテラカル事項ニ就キテハ前號各協定  
 ノ定ル所ニ依ル

## 第二方針

三 輸送船隊集合處、集令時ヨリ泊地投錨ニ至ル間、

(2)

通信ハ海軍之ヲ統制ス

四 通信管制ニ関シテハ左ニ依ル

(1) 輸送船隊ハ特令ナキ限り集合点集合時ヨリ泊地枚籍ニ至ル間通信戦斗管制ヲ實質施スルモノトス

(2) 敵ノ視界内ニ在ル場合ト雖モ為ニ得ル限り電

波ヲ輻射ヲ行ハサルモノトス

五 輸送船隊通信ハ輸送船隊運動並ニ通信規程附

録輸送船隊通信書ニ定ル信號ニ依ルヲ原則トス

輸送船隊海軍、超短波無線電話機ヲ装備シテ

場合、通信連絡ハ海軍所定ニ依ル

### 第三 實質施



六事前準備

海軍ハ附表第一ノ通信隊ヲ集合ス於テ乗船セ  
シム

七護衛隊輸送船隊間ノ通信連絡

(イ) 上陸開始迄ノ通信連絡

(一) 通信連絡ハ信號ヲ主用シ晝間煙火信號ニ依ル  
緊小急信號ヲ附表第二ノ通定ノ之ヲ併用ス

(二) 護衛指揮官乗艦及海軍嚮導艦ハ夫々輸送  
船隊ノ信號中継ニ任シ又附近隣接海軍艦船  
ハ機宜輸送船隊ノ信號中継ニ任ス

(三) 視界外ニ離レル輸送船ハ常時長波(四〇KC)ニ  
配員シ急ニ備フルモノトス

(四) 無線交信法

(3)

海陸軍無線交信規定ニ據ル

(四) 上陸開始後ノ通信連絡

(一) 海軍派遣通信隊ハ上陸兵團司令部ト共ニ上

陸ニ速カニ假設通信隊ヲ設置シ各護衛指揮

官乗艦及海上部隊ト連絡ニ任セシム

(二) 各護衛指揮官乗艦及全輸送船ハ長波(四一〇

K.C)ニ配員連絡ス

### 第四 通信諸元

八 使用電波通信系等

別圖第一 第二 通

九 艦所名信號

附表第三 通

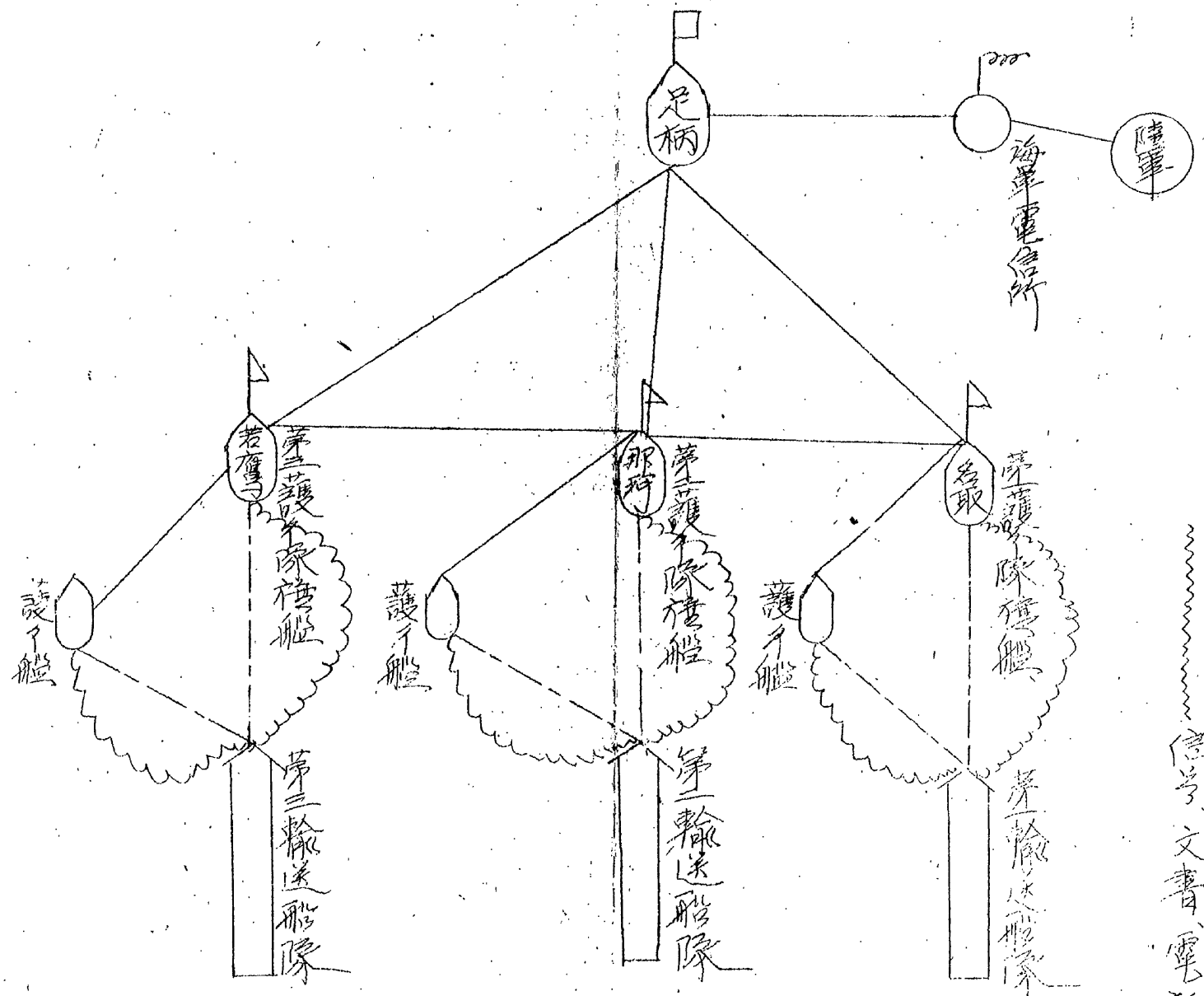
8860

一〇. 輸送船隊運動並ニ通信規程附録輸送船隊通  
信書ニ鉛筆記入スベキモノ  
附表第三ノ通

(4)

別圖第(一)

(直接護衛中通信系)

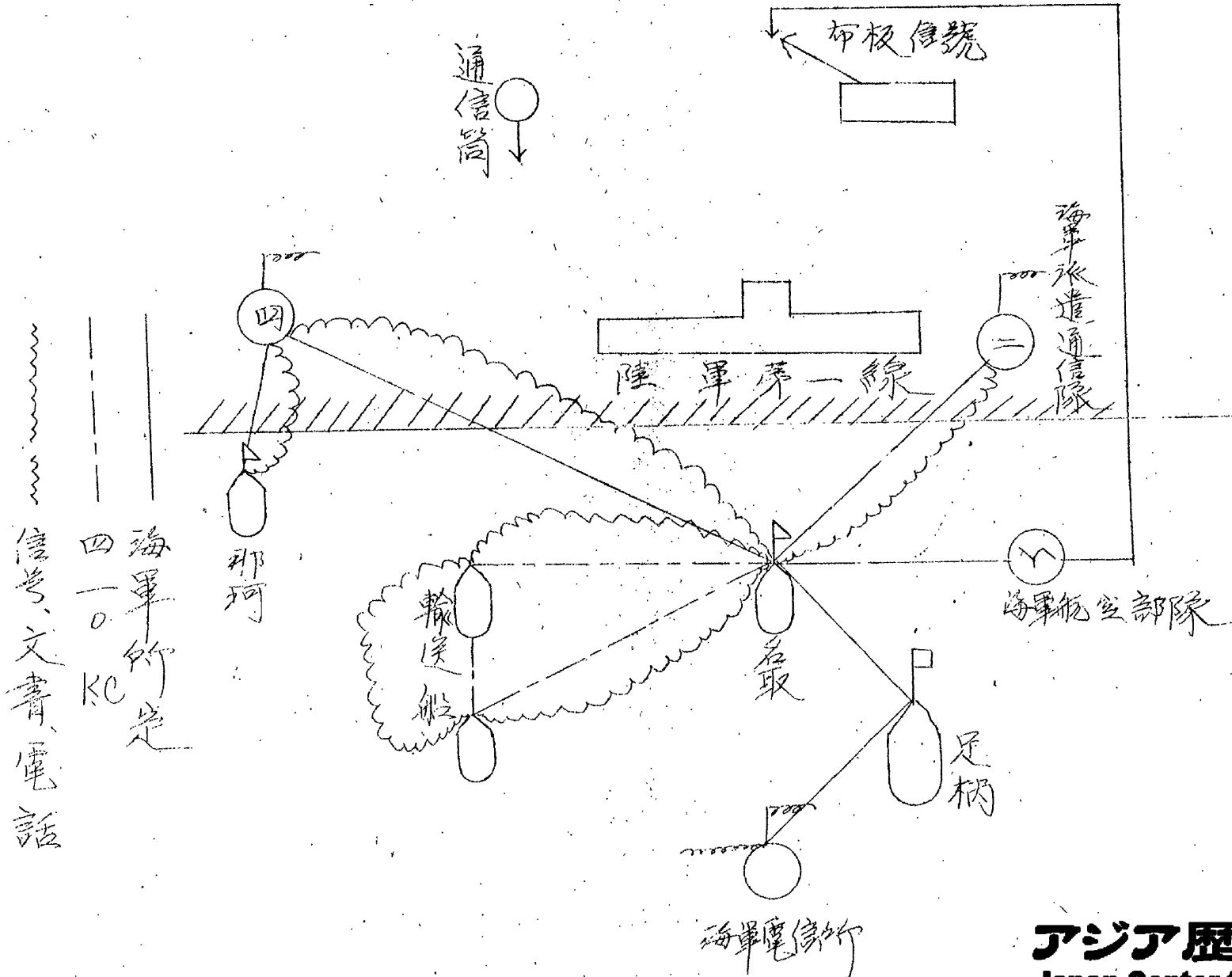


海軍電信所

信号、文書、電報

別圖第三

上陸戰鬥初期ノ通信系



附表第

第四派遣 通信隊	第二派遣 通信隊	派遣通信隊
准士官 電信員 暗號員 模範員 兵 一 一 一 一 二	准士官 電信員 暗號員 模範員 兵 一 二 三 七 六	隊員
T.M式 短移動 二組	T.M式 短移動 二組	天機
二通	(司令部) 二通	派遣元
48D 司令部 三七四(銀洋丸)	14A 司令部 八三〇(帝梅丸)	派遣先

備考

一、派遣通信隊、輸送船隊、集金地、与港前日中、上集船、五ノト久  
二、米船中、超短波電話模範隊、獲多隊、指揮官ト上

陸軍國指揮官向ノ連絡ヲ行フモノトス通信電波ヲ  
三五〇KCトス

三、陸上ニ在ル派遣通信隊ト陸軍指揮官向ノ連絡  
施設ハ陸軍之ヲ担任ス

四、派遣向ニ在ル派遣通信隊ニ對シ糧食其他(カソ  
リン、モビール、蠟燭、燐寸等)ノ供給警衛及輸送

(作業員、舟艇トラック等)ハ陸軍之ヲ担任ス  
其他派遣通信隊長ヨリ所要ニ出シ請求セシム

五、第四派遣通信隊ノ撤收ハ陸軍部隊通信所  
ノ派遣ニ因リテハ陸軍之ヲ担任ス

通信開始ノ時機トシ特令ヲ限リ後帰スル  
艦船ヲ急ぎ九トス撤收ニ要スル輸送舟艇

ノ派遣ニ因リテハ陸軍之ヲ担任ス

④ 第一派遣通信隊ハ第一師團司令部ニ派遣中ハ  
 司令部 派遣 海軍 参謀ノ指揮ヲ受ケ  
 其ノ撤收ハ特令ニ依ル



黒龍	白龍	黄龍	火煙(煙火)號
敵艦艇見工	船行接見工	潜水艇見工	信文
赤星	緑星	白星	火煙(煙火)信號
一斉回頭 緊急左半五度	一斉回頭 緊急右半五度	敵用セヨ第一法	信文

附表第二  
火煙(煙火)信號表  
緊急信號

附表第三 艦所名信號(輸送船隊通信書=鉛筆記入)

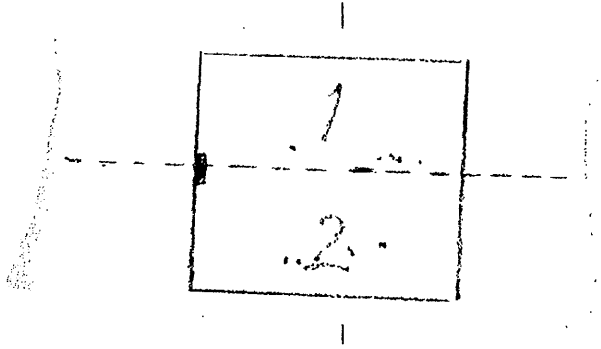
信号符字	暗号符字	信 文	信号符字	暗号符字	信 文
A 1 G	アモメ	名 取	A 1 S	イイ口	掃 14
A 1 H	アヤモ	文 月	A 1 T	イウア	掃 15
A 1 I	アユヤ	阜 月	A 1 U	イエイ	掃 16
A 1 K	アヨユ	長 月	A 1 W	イオウ	掃 17
A 1 L	アラヨ	水無月	A 1 X	イカ工	掃 18
A 1 M	アリラ	春 風	A 1 Y	イキオ	掃 19
A 1 O	アルリ	旗 風			
A 1 P	アルル	朝 風			
A 1 Q	アロレ	松 風			
A 1 R	イアル	掃 13			
A 3 M	イラユ	4 S. 丸	A 3 W	ウエア	春 雨
A 3 O	イリヨ	那 珂	A 3 X	ウオイ	夕 立
A 3 P	イルヲ	九 驅	A 4 P	ウツソ	三興(394)
A 3 Q	イルリ	朝 雲	A 4 Q	ウテタ	大井川(480)
A 3 R	イワル	峯 雲	A 4 R	ウトチ	高雄(638)
A 3 S	ウアル	夏 雲	A 4 S	ウナツ	ふりしん(702)
A 3 T	ウイル	村 雨	A 4 T	ウニチ	はわい(832)
A 3 U	ウウ口	五月雨	A 4 W	ウ又ト	春幸(532)
備 考	信號符字ハ視號通信ノ又暗號符字ハ無線通信ノ呼出符號トシテ使用スルモノトス				

0995

29	29	29	29	頁
Y	Y	Y	Y	信号付字
Z	X	W	K	
子	子	子	子	暗号付字
二	十	ト	工	
電波通常管制ト也	電波警戒管制ト也	電波戦時管制ト也	九式無線電話機ニ配員セヨ	信 文

附表第三  
 輸送船隊通信書ニ鉛筆記入

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>50年 9 月 26 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 金沢悦夫 (印)</p>	





第五艦隊のバコ攻略作戦行動圖

(自 昭和十六年十二月十六日1600  
至 全 二十日0400)

(海軍海圖第1677號F同尺度)

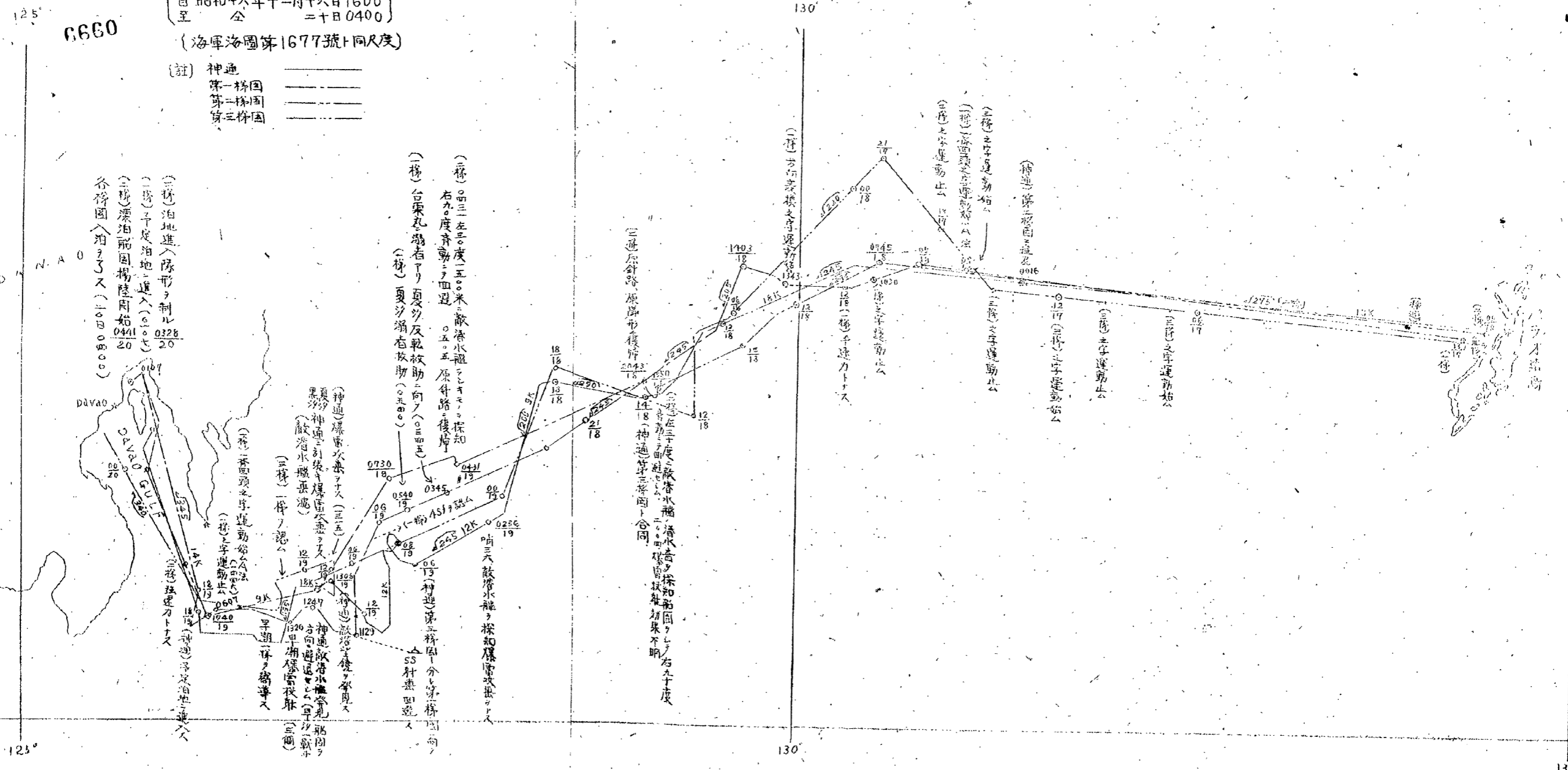
6660

(註) 神通  
第一梯団  
第二梯団  
第三梯団

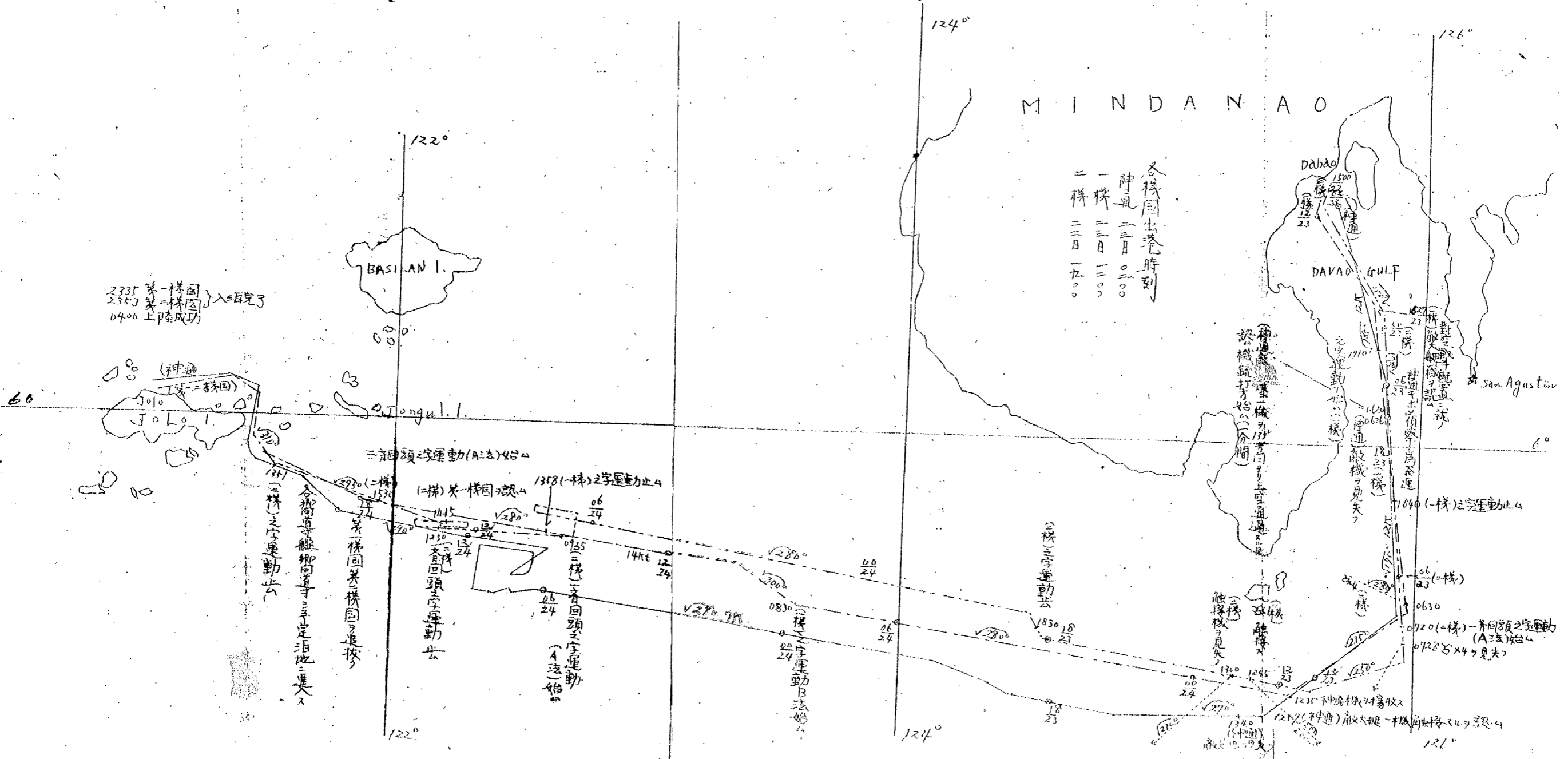
(一梯) 泊地進へ隊形ヲ制ル  
(二梯) 子定泊地ニ進入(0328 20)  
(三梯) 漂泊前國揚陸開始(0441 20)  
各梯団ハ泊ヲ了ス(1000 0000)

(一梯) 台乘丸船着リ、直後以反戦救助ニ向テ(0345 18)  
(二梯) 夏沙浦右舷救助(0500 18)  
(三梯) 四三左三〇度一五〇米敵潜水艦ヲシテマツ探知  
右九〇度背動ニテ回避(0505 18) 原針路ニ復帰

(三梯) 三度三〇度敵潜水艦ヲ探知前國ヲシテ右九〇度  
三度三〇度敵潜水艦ヲ探知前國ヲシテ右九〇度  
三度三〇度敵潜水艦ヲ探知前國ヲシテ右九〇度



0001



第五艦隊司令部改修作戦行動図  
 自昭和六年十一月二十一日一九〇〇  
 至全  
 二十四日三三三三  
 (海軍海図第六九号ノ全尺度)

(註)  
 神機  
 英機回